

解答

□

問一 A 探究 B 関心 C 脳死 D 化学 E 冷蔵庫

問二 実際に地球 問三 エ

問四 エ↓ウ↓ア↓イ

問五 あくせく 問六 ア

問七 エ 問八 エ

問九 手がはなせない

問十 人間が二〇世紀の科学によって壊してしまった自然や環境をできるだけととりもどす、環境問題を解決するための科学であり、病んでいる地球を治療する、地球の臨床医学にもたとえられる科学。

□

問一 a 胸 b 足

問二 この万年筆さえ手にしていれば、何か特別な力を発揮できると信じ、書きたくてたまらなくなったから。

問三 イ 問四 イ

問五 エ 問六 イ

問七 切れた

問八 絶望的な状況から、たやすく自分を救い出してくれたたのもしキリコさんを、一層のあこがれをもって見つめる気持ち。

問九 ア 問十 エ

解説

□

出典は、小野有五「ヒマラヤで考えたこと」。

問十 「二一世紀型の科学」という言葉は、問題文の前半の最後にあり、「それ（『二一世紀型の科学』は、僕たちがこの二〇世紀を通じて壊してしまった自然や環境を、できるだけもとにとりもどすための科学、環境の科学である」と説明されています。問題文の後半では、「二一世紀型の科学」がどうあるべきかについて、さらに詳しく考察されています。末尾から5行めには、「実際に地球が病んでいても、それを治療する科学がなかったのである（↓それを創るべきだ）」、また末尾には、「環境問題を解決する科学、地球の臨床医学を、今こそつくらねばならない」とあります。これらの内容を、過不足無くまとめましょう。

□

出典は、小川洋子「キリコさんの失敗」（『偶然の祝福』所収）。

問二 傍線部より3・4行前に、「この万年筆さえ手にしていれば、何か特別な力を発揮できると信じた。／私はいつどんな時も、書きたくて書きたくてたまらなかった」とあります。この段階では、「私」にはただ「書きたい」という衝動があっただけだったという点を押さえておきましょう。

問八 まず「私」が陥った大ピンチを、キリコさんがさっそうと救ってくれたことを押さえましょう。また、「救ってくれたのはやはりキリコさんだった」「一層唇が光って見えた」とあることから、すでにあった尊敬や憧れの気持ちが一層強くなったことが暗示されています。「唇が光っている」「口紅をつけている」大人の女性であるキリコさんへのあこがれの気持ちをつけ加えてもいいでしょう。